



令和元年9月 3日

遠藤 英樹 議長

報告者氏名 十川 拓也

実施日	令和元年8月6日(火)～令和元年8月7日(水) 1泊 2日	
参加者	1 熊木照明 2 榎本守明 3 馬場栄一郎 4 遠藤英樹 5 十川拓也	合計 5人
視察先・目的	視 察 先 1 タニタカフェ 2 長岡市 3 新潟市	目 的 健康づくりの拠点「タニタカフェ」の背景 市民交流の拠点であるアオーレ長岡の経緯 スマートウエルエスシティの取り組み
宿泊場所	1 ホテルオークラ新潟	
費用	宿泊費(1泊1食) 72,900 円	夕食代 27,000 円
	交通費 117,830 円	昼食代 19,607 円
	その他 20,502 円	合計 257,839 円

## 視察先 『タニタカフェ』

日時 8月6日火曜日

視察先 タニタカフェ

場所 新潟県長岡市大手通2丁目2-6

●背景 医療費の増加は全国的にも大きな問題となっている。健康的にいきいきと暮らせるよう、継続できる健康づくりの習慣が必要とされている。

●目的 ながおか市民センター内にオープンした多世代健康まちづくり事業の一環としての、健康の3要素「食」「運動」「休養」を良質でバランスよく実践できる健康づくりの拠点「タニタカフェ」の取組を視察する。

●内容 タニタカフェは、タニタ食堂を展開する健康総合企業の株式会社タニタがプロデュースしている。同社が手がけるカフェスタイルの健康拠点は全国初の取り組みである。タニタカフェの取組の一つである、「長岡市多世代健康まちづくりプロジェクト ながおかタニタ健康くらぶ」は、子どもから高齢者まで多世代の方々が、気軽に・楽しく・簡単に健康づくりに取り組める会員制の健康クラブである。会員証の活動量計と市内14か所のウェルネススポットにあるプロフェッショナル仕様の体組成計、血圧計を使って、からだの変化を「見える化」するとともにさまざまな健康プログラムを提供。ダイエットサイクルの循環による健康づくりをサポートしている。



### ●特徴

- ・会員証の活動量計で消費カロリーチェック
- ・ながおか健康ポイント
- ・新潟アルビレックスBBのオフィシャルカフェ
- ・健康プログラム

活動量計での消費カロリーチェックは、1日の総消費カロリーや歩数が分かる活動量計である。市内14か所のウェルネススポットで体組成や血圧をはかって、からだの変化を記録し、パソコンやスマートフォンでチェックできる。



ながおか健康ポイントは、歩いたり、ウェルネススポットで計測するとポイントが貯まり、景品に交換できる。また TANITA CAFE で割引サービスタニタコーヒー40円引きの件がもらえたりする。活動量計を持って歩いて、市内に設置している体組成計ではかることで、からだの状態を「見える化」し、みんなが健康なまちを目指す。



新潟アルビレックス BB のオフィシャルカフェとして、タニタ食堂のコンセプトのもとにヘルシーなメニューのほか、選手の好きな料理や食材を使用し、カフェ風にアレンジしたコラボメニューを提供している。またコラボグッズの展示・販売や、大型ディスプレイで試合のライブ中継も行っている。



### 健康プログラム

タニタカフェは健康プログラムとして

- 健康づくりセミナー
- 健康計測コーナー
- まちなか健康相談コーナー

の3つを、提供している。

→健康づくりセミナー 医師による講話、ウォーキング体験、栄養講座、タニタ食堂メニューの試食など、毎回様々な内容が充実している。



→健康計測コーナー 市内 14 カ所のスポットに設置してある体組成計、血圧計で健康チェックが出来る。計測したデータは、パソコンやスマートフォンを使っていつでも閲覧可能。毎日の健康状態やその変化を気軽にチェックできる。

→まちなか健康相談コーナー タニタカフェ内に設けられたカウンセリングコーナーにて、管理栄養士の資格を持つ専門のスタッフによる健康相談。



#### ●まとめ

タニタは、健康機器メーカーとして世界的に有名なメーカーであり、健康分野では様々な取り組みを行っている。タニタの『社員食堂』を起点とするビジネス展開は、第4回日本マーケティング大賞を受賞し、続き2018年に「タニタカフェ」を出店している。民間活力を、非常にうまく用いたこのような取り組みは、今後より重要性を模してくると考えられ戸田市にとっても非常に参考になると思われる。

参考: <https://www.nagaoka-kenkou.jp/> <https://www.nagaoka-kenkou.jp/kenkou> <https://www.nagaoka-kenkou.jp/kenkou/kenkou-point> <https://www.nagaoka-kenkou.jp/kenkou#taisoseikei>

## 視察先 『長岡市役所』

日時 8月6日火曜日

視察先 長岡市役所

場所 新潟県長岡市大手通1丁目4番地10

●背景 公共施設の老朽化に伴い、各市町村で公共施設、商業施設の再編は大きな課題となっている。国はコンパクトシティの方針を掲げ、全国で公共施設の在り方の再検討は重要になってきている。

●目的 本市でも公共施設老朽化は進んでいる。新しい公共施設として、全国的にも有名である市民交流の拠点シティホールプラザアオーレ長岡の取組を視察する。

●内容 シティホールプラザアオーレ長岡は、本庁舎、アリーナ、屋根付き広場「ナカドマ」から成る全国初『アリーナ』、『ナカドマ』、『市役所』が一体となった市民交流拠点である。デザインは隈研吾が「まちの中土間」をコンセプトとして手掛け、歴史、産物が採り入れられている。東棟、西棟、アリーナ棟から構成され、3棟に面し屋根付き広場「ナカドマ」が配されている。

### ●特徴

- ・『ナカドマ』、『市役所』、『アリーナ』が一体となった市民交流の拠点
- ・土間の概念を取り入れた屋根付き広場空間「ナカドマ」
- ・身近な市政中枢部、市民生活関連部課、ガラス張りの市議会議場

### ナカドマ

広さ約2,250m<sup>2</sup>の屋根付き広場空間「ナカドマ」は土間の概念を取り入れ、市民のための公共空間である。路面舗装は三和土調で、仮設ステージや移動販売車、屋台などの設営が可能で各種イベントに対応している。LED方式300インチ相当の大型映像装置は、紹介映像などが放映されている。



## 環境対策

大屋根は融雪装置より冬でも採光を可能。また屋根には太陽光発電パネルが設置されている。雨水・融雪水を循環して使用できる雨水中水化システムを備え、環境負荷の低減している。



## 東棟・西棟

東棟は市役所部課、西棟は市議会議場が入る。本庁舎は、市政の中核部が置かれているほか、市民生活に関連する部課が配置。平日の窓口業務を午後 8 時まで延長、年末年始を除く土曜・休日にも業務を行う。



東棟 1 階には実写 3D 映像の 49 席のシアターを設置。イベント開催や一般利用にも対応している。

西棟 1 階はガラス張りの市議会議場があり、また天井には長岡花火をモチーフに木のパネルが配置されている。



## アリーナ

アリーナは各種屋内スポーツ、講演会、集会、展示会、コンサートなど多目的に利用。最大床面積約 2,123m<sup>2</sup>、収容人数合計 2,172 人で、バスケットボールコート 3 面分を確保できる。



### バスケットによるまちおこしの拠点

新潟アルビレックス BB が、ホームアリーナを本施設に設定。市の総合戦略に「バスケットによるまちおこし」が位置づけ、アリーナがその拠点となった。



### ●まとめ

少子高齢化に伴い、全国的に都市機能の集積が進められている。その中で長岡市は、市役所移転を機に都市機能を中心市街地に再集積させ、空洞化が急速に進捗する中心市街地の活性化を行った。新庁舎は本庁舎、アリーナ、「屋根付き広場」の 3 つを一体的整備することによって、市民・議員・職員が交流できる「市民との協働の場」を上手に生み出している。原告的にも有名な長岡市の集約化は戸田市にとっても今後の公共施設の在り方として、とても参考になる。ただデメリットとしては、施設の高い建設コストや維持費がある。国庫支出金約 29 億円、地方債約 51 億円、市都市整備基金約 45 億円、一般財源約 3 億円の合計約 131 億円かかっており建設事業費がかなり高額なのがデメリットである。他の点では意見交換会や市政懇談会などを通じ、移転に関する市民からの意見集約もし、市民の意見もしっかり取り入れていた。その結果、実際の数字でもまちなか歩行者数が 1.5 倍増加、空き店舗数が 47%も減少、施設稼働率が高い稼働率 85%など市民の満足度も高く地域に大きな効果をもたらしていた。

### 参考:

<https://www.nagaoka-keikou.jp/kerkon> <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%95%B7%E5%B2%A1%E5%B8%82%E3%82%B7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%97%E3%83%A9%E3%82%B6%E3%82%A2%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%AC%E9%95%B7%E5%B2%A1>

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shiwa/cat/05/a07e/> <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%95%B7%E5%B2%A1%E5%B8%82%E3%82%B7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%97%E3%83%A9%E3%82%B6%E3%82%A2%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%AC%E9%95%B7%E5%B2%A1>

## 視察先 『新潟市』

日時 8月7日水曜日

視察先 新潟市役所

場所 新潟県新潟市中央区学校町通1番町 602 番地 1

●背景 先のタニタカフェの視察同様、現在、医療費の増加は全国的にも大きな問題となっている。健康的にいきいきと暮らせるよう、継続できる健康づくりの習慣が必要とされている。

●目的 車依存を減少し、歩行者したくなるまちづくり「スマートウェルネスシティ」(健幸都市づくり)を推進している新潟市の取組を視察する。

●内容 新潟市のスマートウェルネスシティについて

スマートウェルネスシティ(SWC:健幸都市)は、

「スマート」 (賢明快適美しい)、

「ウェルネス」 (健康幸せ)、

「シティ」 (まちづくり)

が柱となっている。住む人が自然と”健幸”になる街「スマートウェルネスシティ」を目指している。

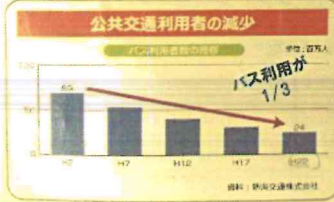


新潟市が目指すスマートウェルネスシティ「生涯にわたり、健やかで幸せに(健幸)暮らせるまち」である。スマートは「賢い」、ウェルネスは「健康」を意味し、スマートウェルネスシティは「健康」+「幸福」の造語、「健幸」を意味する。「健幸」とは、身体面での健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること。シティは「まちづくり」。健康づくりとまちづくりをセットで取り組む必要があるということである。



## 新潟市の課題

## 健康寿命延伸計画の目標値



市民の健康データを分析し、新潟市の全体的な課題、平成31年度に取り組みべきポイントを主に4つとしました。

- ① 健診受診率の向上
- ② 食塩摂取量の抑制
- ③ 運動習慣の定着
- ④ 健康経営の推進



指標	現状値	目標値
特定健診受診率 (法定健診率(受診率) 国民健康保険)	36.7% (H29(2017)年度)	51% (H31(2019)年度)
減塩を意識しているし、できている人の割合 (H30(2018)年度)	48.2% (H30(2018)年度)	60%以上 (H35(2023)年度)
1日60分以上を動かす生活を営んでいる者の割合 (H30(2018)年度)	男性36.5% 女性37.2% (H30(2018)年度)	40%以上 (H35(2023)年度)
健康経営に取り組む企業 団体数 (市内健康経営推進活動における新規認定企業(団体数))	136社・団体 (H30(2018)年度)	160社・団体 (H32(2020)年度)

国の目標はH35(2023)年度までに受診率60%!

食塩摂取目標値 男性8g未満、女性7g未満に対し本市は 男性10.1g、女性9.5g!

平均歩数が国の目標値よりも下回っています!

H30(2018)年度新規事業

### ●特徴

- ・スマートウェルネスシティ首長研究会への参加
- ・にいがた未来ポイント
- ・ライジングボラードによる歩く人が中心となる道路空間づくり
- ・公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくり条例

- ・スマートウェルネスシティ首長研究会への参加

スマートウェルネスシティの構築を目指す首長の集まりで、年2回研究会を開催。超高齢・人口減社会に対し、「健幸」をこれからのまちづくりの基本に据え、持続可能な新しい都市モデルを目指し全国の首長が集まり活動している。

- ・にいがた未来ポイント

環境・健康に配慮したライフスタイルの普及拡大を図り、「環境健康都市」を実現するため、市民の皆さんのエコ活動・健康づくりにポイントを発行しています。対象事業へ参加して、りゅーとカードやおサイフケータイにポイントをためる。500ポイント単位で新潟市・佐渡市共通商品券またはバス乗車ポイント(500円分)に交換できる。

- ・ライジングボラードによる歩く人が中心となる道路空間づくり

ライジングボラードとは、自動昇降式の車止めのことで、ヨーロッパなどでは広く普及している。日本初となるライジングボラードを古町モール6に設置し、ライジングボラードが時間帯によって自動的に昇降し、自動車の通行を物理的に制限する。歩行者が安心・安全に歩ける道路空間を創出し、賑わいや魅力向上を図る。

### 歩行空間の整備 全国初の公道設置 “ライジングボラードの整備”

■ 中心市街地「中央区古町通6番町」設置

★ 正午～翌朝3時 歩行者専用道路

違反通行車両の激減(119台/通→2台/通)

■ 「中央区古町通8番町」設置

★ 17:00～22:00 歩行者専用道路

★ 3本同時可動型に改良



### 歩行空間の整備 全国初の公道設置 “ライジングボラードの整備”



・公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくり条例

超高齢社会や健康づくり、環境問題、まちなかの活性化など社会環境の変化に対応すべく、「公共交通や自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくり」を目指して、条例を平成 24 年 7 月に制定した。



●まとめ

戸田市も少子高齢化・人口減少が今後、急速に進んでいく。身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れることは重要である。新潟市は、スマートウェルネスシティを掲げ、にいがた未来ポイント、ライジングボラードによる道路空間づくり、快適に歩けるまちづくり条例、車に頼らない移動推進等多くの試みを行っていた。ポイントの面では、予算の関係もあり課題もあるとの事でもあった。また医療費は戸田市も今後増加していく傾向が予想される。健康づくりで医療費抑制にもつながり、市民の健康も維持できるスマートウェルネスシティの活動は様々な面で応用ができると考えられる。

参考：[https://www.city.niigata.lg.jp/smph/kurashi/ku\\_info/kurashi\\_chuo/douro-kotsu/risingbollard.html](https://www.city.niigata.lg.jp/smph/kurashi/ku_info/kurashi_chuo/douro-kotsu/risingbollard.html) <http://www.swo.jp/about/> [https://www.city.niigata.lg.jp/smph/iryo/kenko/hoken\\_torikumi/smartwell/torikumi.html](https://www.city.niigata.lg.jp/smph/iryo/kenko/hoken_torikumi/smartwell/torikumi.html)  
<https://www.city.niigata.lg.jp/smph/kurashi/kankyo/miraipoint/miraipointtop.html> [https://www.city.niigata.lg.jp/smph/kurashi/doro/kotsu/kotsu\\_jyourei.html](https://www.city.niigata.lg.jp/smph/kurashi/doro/kotsu/kotsu_jyourei.html)



令和元年11月11日

遠藤 英樹 議長

報告者氏名 十川 拓也

実 施 日	令和元年10月15日(火)～令和元年10月16日(水) 1泊 2日							
参 加 者	1 熊木照明 2 榎本守明 3 遠藤英樹 4 十川拓也  合 計 4 人							
視察先・目的	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">視 察 先</td> <td style="text-align: center;">目 的</td> </tr> <tr> <td>1 鹿児島市</td> <td>地域社会づくりコミュニティビジョンについて</td> </tr> <tr> <td>2 鹿児島市</td> <td>戸別収集「まごころ収集」の取り組みについて</td> </tr> </table>		視 察 先	目 的	1 鹿児島市	地域社会づくりコミュニティビジョンについて	2 鹿児島市	戸別収集「まごころ収集」の取り組みについて
視 察 先	目 的							
1 鹿児島市	地域社会づくりコミュニティビジョンについて							
2 鹿児島市	戸別収集「まごころ収集」の取り組みについて							
宿 泊 場 所	1 鹿児島東急REIホテル							
費 用	宿 泊 費( 1泊 1食) 57,200 円	夕 食 代 22,000 円						
	交 通 費 256,740 円	昼 食 代 11,924 円						
	そ の 他 12,320 円	合 計 360,184 円						

## 視察先 『鹿児島市 コミュニティビジョン』

日時 10月15日火曜日

視察先 鹿児島市役所 市民局 市民部 地域振興課

場所 鹿児島市山下町11番1号

### ●背景

近年、全国的にも町会や地域コミュニティへの関りが薄れてきている。戸田市も同様で町会の加入率は低い状態にあり問題になっている。鹿児島市では約780の町内会のほか、校区公民館運営審議会、あいご会、老人クラブなどにより多様な地域コミュニティ活動が展開されている。ライフスタイルや価値観などが変化する中、会員の減少や担い手の不足などで「地域力」は低下しており、自助・共助・公助による「市民との協働によるまちづくり」に取り組みが必要となっている。

### ●目的

鹿児島市のビジョンは、「共に助け合い、みんなで作る活力ある地域コミュニティ」の実現をめざして、市民と行政が一体となって協働して築きあげ、安心して暮らせるまち、喜びと希望に満ち溢れる地域社会づくりを推進する。戸田市においても、お互いに信頼し助け合い、安心して暮らせ、元気を感ずることができる、豊かな人間関係が築かれた地域コミュニティの実現は重要であり、この度鹿児島市での取組を学ぶ。

### ●内容

#### ・鹿児島市コミュニティビジョンについて

鹿児島市の地域社会は、町内会、あいご会、老人クラブらの校区単位の組織連携で支えられている。しかしながら、核家族化、都市化、少子高齢化等の社会変化で、絆の弱まり、人口減少等の問題がある。このような中、鹿児島市は平成23年に共に助け合い、みんなで作る活力のある地域コミュニティを目指し、4 鹿児島市コミュニティビジョンを策定した。

#### ・鹿児島市コミュニティビジョン3つの基本方針

基本方針① 自助・共助・公助のバランスを 踏まえた協働による地域づくり。

「自助」を前提として行政による「公助」とともに、地域の住民自ら解決にあたる「共助」の力を発揮するため、住民参加を基本として、協働による地域づくりを進めている。

基本方針② 多様な地域コミュニティ組織による共助と連携

地域コミュニティ組織の地域課題への対応力を高め、行政側の体制を整理とともに、地域コミュニティ組織についても、それぞれの良さを活かしながら補い支え合い、連携を図る。

基本方針③ 地域の実情や多様性を 踏まえた地域コミュニティづくり

地域コミュニティとして、一律的なものを目指すのではなく、それぞれの地域の人々の自主性を踏まえ、地域コミュニティづくりを進めまる。

#### 『地域コミュニティづくり』の4つの方策

##### ①きっかけづくり

■若年層に向けた意識啓発 ■勤労世代、子育て世代に向けた意識啓発 ■団塊の世代などに向けた意識啓発

##### ②人づくり

■リーダーの育成 ■事務局人材の育成 ■コーディネーターの育成・派遣

##### ③環境づくり

■補助制度の整備 ■公民館など活動拠点の確保 ■地域コミュニティ活動に必要な情報の提供

##### ④「結い」づくり

■地域コミュニティ組織間の連携の支援 ■行政の支援体制の充実

#### ●まとめ

戸田市も、核家族化、都市化の社会変化で、人と人との絆の弱まりは大きな問題となっている。鹿児島市もこの対策として様々な対策を行ってきているが、簡単には変わらない難しい問題であるとの事である。鹿児島市では、今回の説明の中で具体的支援として、人的支援(連携コーディネーターによる支援)、3つの財政的支援(設立準備・協働事業・組織運営支援金補助金)、校区ごとの広報活動、地域コミュニティプラン作成(H31 68 協議会で策定)等を行っているとの事であった。その中の鹿児島市地域コミュニティの取組みの1つとして、面白かったのは、谷山ふるさとコミュニティ協議会の取組で地域ゆかりのゆるキャラを売り出すプロジェクトなどだ。小中高生からの286点の応募から、地域に根付いたゆるキャラを製作するなど、ユニークな試みを行っていた。また5年、10年先を見据え地域コミュニティの中に市民団体、地域事業所との結びつきを深めていく取り組みなども、本市にも参考になると思った。

#### 参考:

<http://www.city.kagoshima.lg.jp/shimin/shiminbunka/chiikishinko/machizukuri/kocho/chonaikai/communityvision.html>

<http://www.city.kagoshima.lg.jp/shimin/shiminbunka/chiikishinko/machizukuri/kocho/chonaikai/documents/201144152213.pdf>

## 視察先 『鹿児島市 まごころゴミ収集』

日時 10月16日水曜日

視察先 鹿児島市役所 環境局資源循環部清掃事務所

場所 鹿児島市山下町11番1号

### ●背景

少子高齢化に伴い、高齢者の家庭でゴミ出しが困難になってきている。高齢者のゴミ出しは、ニュースでも取り上げられ大きな問題となっている。

### ●目的

戸田市でも今後高齢化が予想される中、家庭から出されるごみ・資源物をごみステーションまで運ぶことが困難な高齢者や障害者などを対象に鹿児島市で行われている戸別収集「まごころ収集」の取組みを視察する。

### ●内容

・鹿児島市高齢者等戸別収集サービス「まごころ収集」について

対象者に該当する、ごみステーションまでごみを出すことが困難な高齢者や障がいをお持ちの方々を支援するサービス。条件に該当し、かつ介護保険法または障害者総合支援法に基づく居宅サービスを利用している一人暮らしで、自らごみ等を排出することが困難で、他に協力を得ることができないと認められる方が対象者。

### ・対象

- ① 要介護1以上の1人暮らしの方
- ② 身体障害1級または2級の1人暮らしの方
- ③ 知的障害A判定の1人暮らしの方
- ④ 精神障害1級の1人暮らしの方
- ⑤ ①から④に該当する方のみで構成される世帯

### ・申し込みから収集開始までの流れ

■申し込み→■書類審査→■現地調査→■決定→■収集開始

問い合わせいただいた方に、申請書を送付し要件の確認を行う。日時を調整の上、担当職員が伺い、排出場所などの確認をする。現地調査などで問題がない場合は実施を決定し、決定通知書を届け、収集を開始する。

### ●まとめ

鹿児島市は、面積約547km<sup>2</sup>、人口約60万人の中核都市で市内に780の町内会があり、ゴミ収集がかなり複雑との事であった。まごころ収集は31年4月から受付し、7月に取集を開始した。初年度利用者数の見込みは200～1000人で、現時点での利用者数は134人(9月末時点)、今後、徐々に増やしていくとの事。問題としては高齢

化に伴い、今後利用者が大幅に増える事も考えられる。今後、継続しながらどのような体制がいいのか、考えていくとの事である。また外国人のゴミ出しの問題について質問があったが、鹿児島市は在住の外国人はそれほど多くなく今のところ特に問題は起こっていないとの事であった。戸田市も現在、まごころ収集を行っている。しかし今後、高齢化が進行し収集の数が大幅に増えると、やはり同様に現行の体制では立ち行かなくなる。今後の収集を進めながら戸田市も個別収集の在り方を色々考えていかなければならない。

**参考：**

<https://www.city.kagoshima.lg.jp/seisijimushyo/magokorosyusyu.html>

<https://www.city.kagoshima.lg.jp/seisijimushyo/documents/magokochirashi.pdf>

<https://www.city.kagoshima.lg.jp/kankyo/seiso/recycle/curashi/gomi/kate/dashikata/calendar/documents/2019midori-compressed.pdf>

第1号様式・その1(第4条関係)

戸田市議会研修・視察報告書(会派名:みらいの会)



令和元年11月29日

遠藤 英樹 議長

報告者氏名 十川 拓也

実施日	令和元年10月30日(水)～令和元年10月31日(木) 1泊 2日	
参加者	1 熊木照明 2 馬場栄一郎 3 遠藤英樹 4 細田昌孝 5 十川拓也	合計 5人
視察先・目的	視 察 先	目 的
	1 高知市	全国市議会議長会研究フォーラム
宿泊場所	1 リッチモンドホテル高知	
費用	宿泊費(1泊1食)	夕食代
	71,500 円	27,500 円
	交通費	昼食代
359,020 円	14,350 円	
	その他	合計
	70,640 円	543,010 円



## 視察先 『高知市 全国議長会研究フォーラム』

### ●背景

地方分権改革の進展に伴い、市議会の役割と責任が高まる中、市議会は自己改革に取り組み住民の信頼を確保し、議会への多様な人材の参画やいっそうの議会改革を図る必要がある。

### ●目的

全国の市区議会議員が一堂に会し、議会の役割の更なる充実を目指し、共通する課題や今後の議会の在り方について、意見交換を行うとともに、議員同士の一層の連携を深めることを目的とする。

### ●内容

今回は高知が生んだ国民的英雄である坂本龍馬の船中八策に習い、「議会活性化のための船中八策」をテーマとし、現場の課題とその対応策、これからの議会像・議員像について広く討議した。

#### ・プログラム内容

・第1日目 10月30日(水) [会場:高知ちばさんセンター]

12:00 開場・受付

13:00 開会式

13:20 第1部 基調講演

「これからの経済・社会の変容と地方政治家の態度」

中島 岳志 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

14:20 休憩

14:40 第2部 パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる 朝日新聞論説委員

パネリスト 高部 正男 市町村職員中央研修所学長

横田 響子 株式会社コラボボ代表取締役/お茶の水女子大学客員准教授

古川 康造 高松丸亀町商店街振興組合理事長

田鍋 剛 高知市議会議長

16:40 次期開催地挨拶

16:50 次期開催地挨拶終了

18:00 第3部 意見交換会[ザ クラウンパレス新阪急高知]

19:00 意見交換会終了

・第2日目 10月31日(木) [会場:高知ちばさんセンター]

8:30 開場

9:00 第4部 課題討議

「議会活性化のための船中八策(仮)」

コーディネーター 坪井 ゆづる 朝日新聞論説委員

事例報告者 3~4市(予定)

11:00 閉会式

11:30 第5部 視察

日程は2019年10月30日(水)、10月31日(木)と2日間に渡り、高知ちばさんセンターで開催された。初日の第1部では「これからの経済・社会の変容と地方政治家の態度」という基調講演が行われ、「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」との内容で、「政治のマトリクス」として、配分をめぐる軸…Y軸、と価値をめぐる軸…X軸という2つの軸を使い、リスクの社会化と個人化、リベラルとパターナルをそれぞれX・Y軸としてマトリクス化し、政治のマトリクスという難しい問題に対し分かりやすく説明していた。

第2部では「議会活性化のための船中八策」のパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは坪井ゆずる氏のコーディネーターのもと、女性ゼロ議会なお2割という朝日新聞の記事、議員なり手不足の問題、地方議会の三つの悩みという問題を取り上げ、パネルディスカッションを行った。議員なり手不足は、特に人口5万人未満の市の43%が「課題」と答えるなど大きな問題である。戸田市は、現在においては極端な議員なり手不足が問題視はされていないが、将来戸田市も今後はどう変わっていくかはわからない。高知県大川村の村議会でも問題となったように、全国的にも地域事情ごとのなり手不足は非常に大きな問題で、場所によっては極めて深刻な問題である。

2日目の課題討議では、首長提案の修正・否決問題、立候補しやすい環境について、女性立候補 家族・地域の壁問題などが取り上げられた。

今回の全国議長会研究フォーラムでは、全国の地域ごとが抱える問題を学ぶ事ができた。特に人口減、高齢化等が急速に進む地域での議会の在り方は、今後とても大きな問題となる。特に自分の地域だけではわからない、現場の声を学ぶ事ができ、非常に多くの事を学べた。